

レポートの書き方（改訂版）

○課題に答えるとは

課題の言葉を使うこと、つまり結論部分は

「生涯学習社会において選択館種が果たす機能と役割は××であるとする」となるはず。これを導くために

選択館種の特徴を適宜引用しながら述べ、
日本の生涯学習社会の特徴についても引用を用いつつ述べ、
そのなかでのミュージアム独自の機能と役割について
具体例や先行研究を引きながら論じ、
最後に自分の考えを書く

○自分が何を書いているのか明記する

選択館種は最初に明記する、これについて書きますという宣言
なんとなく話題が共有されているから詳しい説明を省くというのはダメ
レポートは他人が読んでわかるように説明をつくる

○授業内容をなぞる説明は不要

このレポートは専門的な講義の受講者や教員に向けた提出物
博物館や生涯学習の定義などを教科書的に記述するのは文字数稼ぎ
ただし、新聞や一般雑誌ならば必要なことだが

○引用はととてもむずかしい

ちゃんとした引用は学生では難しい、修士課程の院生でもあやしい人がいるだろう。要点は、

引用しようとする文献は十分にただしさを判断し、正しいとものだけを使用する。

正しいとは、

論拠を示してあり検証可能、あるいは
論理的な十分に説明がなされていること

○Wikipediaは直接引用しない。

その原典を使うこと。原典が示されていないなら、
そもそも記事の信憑性が確保されていないので使えない。
本でもウェブでもおなじこと。
有名な著作でもだめなもののはだめ、

新聞記事で「網走でツチクジラ捕獲。体長11m11トンのオス」
というのがあったとして、「体重11トン」の根拠は？
「ヒグマ捕獲300kg、10才のオス」は何が事実か。
世の中の約束事を知っておこう。

○レポートの内容は引用部分を含め筆者の意見。

引用部分も、その文章を選択したという時点で筆者の意見。

引用はそのまま抜き出すのは必要なときだけ。

原則は自分の言葉でまとめて書く＝引用の形をとった意見表明、引用は自分の意見を補強するためなので、引用は具体的データなどが多い

「自分」「私」は不要。論述の主語は断りのない限り筆者。

思う、思っているは不要。である、べきだ、で十分個人の意見という意味になる。

○記号は日本語用のものを使用する。

日本語なので原則すべて全角のこと。

半角を用いるのは数字とアルファベットなど外国文字のみ。

数字は1けたの場合は全角でもかまわない（この授業の場合。実際には投稿規定に従う）。

とくに必要な場合は2けた以上の英数字でも全角を用いる。住所や電話番号、略称、機関略号。

””、”、[]、{}、<>などは使わない。

句読点は「、」「。」「。」とする。とくに必要ならば「,」「.」「。」（ともに全角）でもよい。「,」「.」「。」や「、」「.」はだめ。

ただし、最近の例では引用文が多いコラムなどで引用文を<>でくくることがある。

『』は単行本のタイトルにほぼ限定される。

「」内の「」を『』に変更する、という規則があるが、この授業でのレポートでは従わなくて良い。

引用が長い場合は、引用文すべての行頭を2文字下げる。

本文中に（ ）を使用するのは出典、年号、略称などに限定される。

（ ）に意味のある文章を入れてはいけない。

○和暦（元号）を用いる場合は、

最初に西暦を併記する。例）「明治2年（1869）」

次の章や何ページもたってから再度初めて使うときも併記する。

略称の使用は2回目からとし、1回目は「正式名称（略称）」（世界標準）あるいは「略称（正式名称）」（日本式）とする。混在してもかまわない。

例）「国際自然保護連合（IUCN）」「ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）」

○ウェブページの引用の仕方

運営者、ページタイトル、URL、閲覧年月日が原則

このレポートでは閲覧年月日は省略可

紙媒体の引用の仕方は理系学会誌の投稿規定に従うこと

○フォントのサイズ 最低9pt、10-11ptがふつう。

3000-4000字というのは

片面40字×40行＝1600字、両面で3200字という計算

45字45行なら2025字、両面で4050字

○余白天地15-25ミリ（天≦地）、左右15-20ミリ

◎見本を手元に置いて書くこと